

# 「渋川市地域公共交通計画」を策定しました

人をつなぎ、地域を結び、  
暮らしづを支える  
みんなで育む渋川の公共交通～



本市におけるさまざまな交通問題に対応し、持続可能な運送サービスの提供体制を確保するために、令和3年度から7年度を計画期間とする「渋川市地域公共交通計画」を策定しました。今後、計画の将来像である「人をつなぎ、地域を結び、暮らしづを支える～みんなで育む渋川の公共交通～」の実現に向けて、各種施策に取り組んでいきます。

詳しくは、■交通政策課(回②2264)へ。

## 計画策定の背景

自家用車の普及や人口減少の影響により、公共交通の利用者は年々減少しており、今のサービスを維持することは難しくなっています。さらに、昨年から続く新型コロナウイルスの感染対策による外出控えなどが、この状況を加速させています。感染リスクをはじめとする交通事業者は、交通ネットワークの維持に努めていますが、結果として昨年度の乗降客数は大幅に落ち込むことになりました。一方、高齢者が加害者や被害者になる交通事故や、運転免許証の自主返納件数は増加傾向にあり、受け皿としての

バスが行き交う朝のJR渋川駅前

移動手段の確保は、本市の喫緊の課題となっています。

## 公共交通の現状と課題

策定の中で改めて浮き彫りになったのは、自家用車に依存した生活様式の定着や、近年の人口減少や少子高齢化の進行などによる、公共交通の利用者数の減少傾向です。

※平成27、28年に行われた県/ソートリップ調査中「目的」の分担率

### 交通手段の分担率

種類	割合
鉄道	3.5%
バス	0.3%
自動車	80.3%
バイク	0.7%
自転車	2.1%
徒歩	7.8%
その他・不明	5.3%

市民を対象にしたアンケート調査の中では、路線バスを全く利用しない人の割合が約8割となつたほか、過去1年以内に鉄道を利用していない人が約4割、タクシーを利用していない人が約7割という状況も判明しました。

この他にも、「運転手不足の解消」、「情報発信の充実」、公共交通とまちづくりの「一体性の確保」などの課題があることが分かりました。

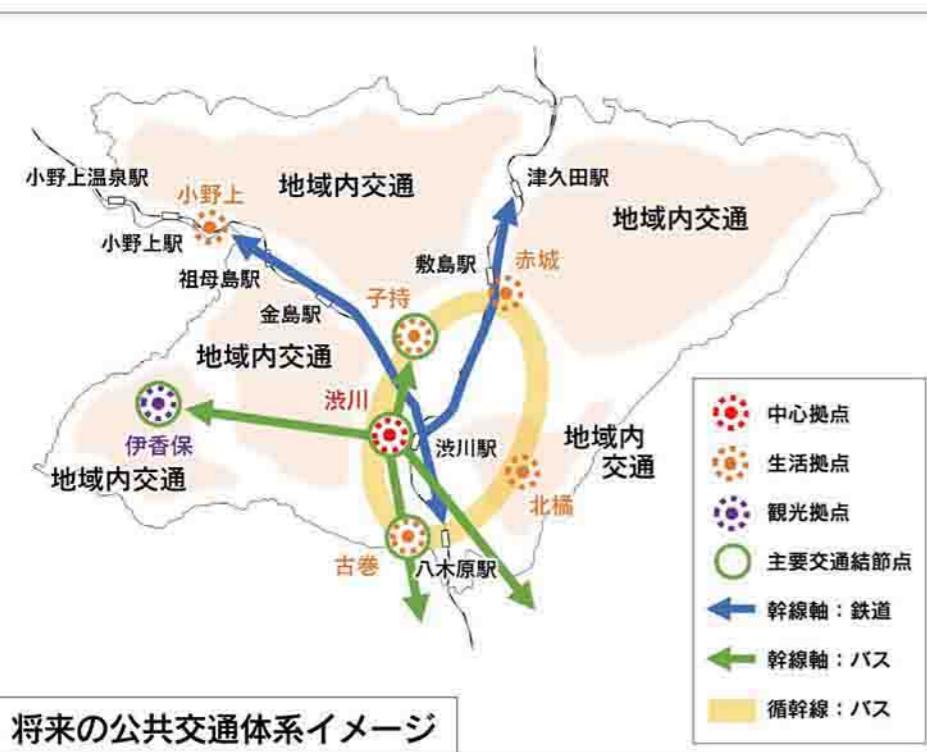
年度	人員
平成27年度	21万1,352
平成28年度	20万3,401
平成29年度	20万7,569
平成30年度	20万3,474
令和元年度	19万8,814

（暮らしを支える）  
高齢者や障害のある人、学生などが自動車を運転できない実現を目指します。

（地域を結ぶ）  
市の中心拠点や各地区の生活拠点、伊香保温泉などの観光拠点を交通の結節点とし、各結節点とJR渋川駅や八木原駅などの鉄道駅を結ぶため、バスと鉄道の連携を強化することで、まちのまとまりの実現を目指します。

（将来像の内容）  
人をつなぐ、地域を結び、暮らしを支える「みんなで育む渋川の公共交通」

（将来像）  
人をつなぎ、地域を結び、暮らしを支える「みんなで育む渋川の公共交通」



## ご利用ください！ 北橘地区予約型バス

予約型バス(デマンドバス)は、乗車を予約することで運行されるバスです。

運行時間 午前8時～午後5時 ※日曜日・祝日は運休

運行場所 北橘地区内

乗降場所 50カ所

予約受付時間 午前7時30分～午後4時30分 ※当日の乗車と翌日の乗車が予約できます

予約電話番号 0120-225-280(フリーダイヤル)

運賃 ▷高校生以上=200円  
▷中学生以下=100円

- ①では、幹線維持や地域内交通・市内循環線の導入のほか、路線バスと通学バスの連携、予約型バス(デマンドバス)の試行運行を取り組みます。
- ②では、バス停留所の待合環境の整備、公共交通のバリエーション化、交通系ICカードの導入などに取り組みます。
- ③公共交通の利用環境を充実させる
- ④公共交通の利用促進を図る

## 具体的な取り組み

この将来像を実現するため、次の3つの方針に基づいて、施策を行います。

- ①公共交通ネットワークを構築する
- ②公共交通の利用環境を充実させる
- ③公共交通の利用促進を図る

この計画は、市全域を対象とし、令和3年度から7年度の5カ年を計画期間とします。評価し、施策の改善に活用することことで、効率的に事業を進めています。

また、利用者や交通事業者に意見を伺いながら、スピード感をもつて取り組みを進め、新たな公共交通体系を構築し、誰もが生き生きとした人生を送ることができる共生社会を実現していきます。

## 計画の推進

（暮らしを支える）  
暮らしを支える人、学生

（暮らしを支える）  
暮らしを支える人、学生